

あす仙台に教室オープン

高齢者へ健康マージャン

マージャンを通じて活発に交流してもらおうと、高齢者向けの健康マージャン教室が12日、仙台市太白区にオープンする。足が不自由な高齢者でも通いやすいよう住宅街にあり、送迎バスも運行する。マージャン店経営の宮野大城さん(42)が3年がかりで準備してきたもので、県内で珍しいという。宮野さんは「引きこもりがちな高齢者が、気軽に楽しんでもらえたら」と話している。

(益子晴奈)



健康マージャン教室をオープンする宮野さん(中央) 11日、仙台市青葉区で

送迎バスも

健康マージャンは「金を賭けない」「たばこを吸わない」「酒を飲まない」がモットーで、老化防止も期待できるため、高齢者の間で人気が高まっている。

教室は、仙台八木山ベンチランド向かいにあるビルの一室にある。広さ約100平方メートルの室内には、明るい緑色の壁紙が張られ、「禁煙」で女性も入りやすい。

初心者も参加しやすいよう、入門、初級、上級の3クラスに分けた。宮野さんなど3人が講師役となり、

24回にわたって基本的なルールを説明したり、マージャン卓を囲んだゲーム形式で指導したりする。週2回、昼間に開き、受講料は1日3000円(税込み)だ。

宮野さんは「お年寄りが孫を連れて遊びに来るような場所にした」と語る。通常のマージャン店は風俗営業法で18歳未満の入店が禁止されているが、マージャン教室なので「問題は無い」という。

宮野さんは現在、市内にマージャン店4店を経営している。10歳でマージャンを覚え、約15年前、26歳で自動車部品会社を脱サラして最初の店を開いた。

同じ頃、マージャンが好きな母・千恵子さん(78)が、大腸がんの宣告を受け、手術後は外出がめっきり減り、引きこもりがちに

なった。「社会から孤立してしまう」と心配していたとき、母を連れ出してくれたのがマージャン仲間だった。楽しそうに友人宅へマージャンに出かけるようになり、今では旅行へ行くまでに回復した。「人をつなぐ力がある」。宮野さんは、マージャンが持つ新たな魅力に気づかされた。

震災後、店を訪れる常連客からも「知り合いの高齢者たちにもマージャンをさせてあげたい」との声を多く聞いたのが、教室開設を大きく後押しした。

宮野さんは「母のように友だちづくりの場になってほしい」と期待を込める。

引きこもり対策 仮設集会所でも